

バイデン大統領も再び陽性に…専門家に聞く「新型コロナリバウンド」のナゼ

公開日：2022/08/05 06:00 更新日：2022/08/05 06:00

ツイート シェアする 48



病床の新型コロナウイルス患者へ食事の介助をする看護師（C）共同通信社

拡大する



ら、再び陽性となるのか。新興感染症への対応経験を有する国立病院機構京都医療センターの林琢磨氏（がん医療研究室室長）に聞いた。

◇ ◇ ◇

——バイデン氏のリバウンド陽性は飲み薬が原因だったのでしょうか。

2021年末から、新型コロナウイルス感染症の飲み薬「モルヌピラビル（商品名ラゲプリオ）」（メルク社製）が、日本国内で処方され始めました。

モルヌピラビルは、ウイルスの設計図「RNA」をつくる酵素の働きを阻害します。ウイルスの増殖を抑えたとされ、メルク社の臨床試験では、入院や死亡のリスクが30%低下したことが認められています。

モルヌピラビルは、非常に有効性の高い薬剤ですが、季節性インフルエンザの治療薬「タミフル」と同じで、抗ウイルス効果が認められるのは、生体内でウイルスが大量に増殖する前に服用する必要があります。投与開始の条件は「発症から5日以内」で、服用の時期が遅れると対応できません。また、新型コロナウイルスは容易に変異を繰り返すため、モルヌピラビルに耐性を持つ変異ウイルスが増殖して、生体内に潜伏する恐れもあります。

バイデン大統領は3回のPCR検査で陰性となりましたが、体内に潜伏していた新型コロナウイルスが何らかのきっかけで活性化された可能性があるでしょう。

——新型コロナウイルスは体内のどの部分に潜伏するのでしょうか。

これまでの研究で、感染した患者の肝臓や心臓、腸、皮膚、骨髄に大量のウイルスが潜伏するケースがあることが分かっています。そのため、既感染者の体調が回復し、PCR検査で陰性となっても、何かのきっかけで、各臓器（組織）に潜伏していたウイルスが再活性化するのです。

例えば、ヘルペスウイルスは常在ウイルスで、多くの人がヘルペスウイルスに感染しています。健常人では免疫機能が正常に働いているので感染症の症状は認められませんが、体力が落ちたり、疲れがたまったりして免疫機能が落ちるとウイルスが活性化して、唇やその周辺の皮膚に小さな水泡（水ぶくれ）が生じます（口唇ヘルペス）。つまり、ヘルペスウイルスのリバウンドです。他にも、水虫（真菌の感染症）やHIV（ヒト免疫不全ウイルス）でも、リバウンドがみられます。

PCR3回「陰性」でも退院後に重症化して死亡のケースも



国立病院機構京都医療センターがん医療研究室室長の林琢磨教授（提供写真）

拡大する



——日本国内の「リバウンド」はどのような状況にありますか。

日本国内でも、このようなケースは少なくありません。これまで、3回のPCR検査で陰性を示した既感染者が、退院数日後に重症化し、死亡したケースもあります。2回目、3回目の陽性を示す芸能人の記事も散見されるように、生体内に潜伏していたウイルスが再活性化した可能性が考えられます。

——リバウンド前後で症状は異なるのですか。

遺伝的バックグラウンドや基礎疾患（糖尿病、心疾患、アレルギーなど）の有無によって、症状は異なります。リバウンドが認められた既感染者を対象とした臨床研究の成果は承知していませんが、抗ウイルス薬服用後にリバウンドが認められる場合、同じ抗ウイルス薬の効果が低い可能性が考えられます。つまり、重症化しやすいと言えるかもしれません。

——ワクチンは効かないのでしょうか。

新型コロナウイルスと標的細胞との結合を阻害する効果を有する抗体の生体内で生産・分泌を強く誘導するのがワクチンです。つまり、新型コロナウイルスの表面に突出しているスパイク糖蛋白質が、標的細胞のACE2を受容体として結合することで、感染の第一歩が成立します。

抗体とスパイク糖蛋白質は、鍵と鍵穴の関係であることが重要です。しかし、新型コロナウイルスは、アミノ酸変異を繰り返すことで、スパイク糖蛋白質の立体構造を変化させているのです。そのため、日本国内で接種されているmRNA基盤のワクチンで生産・分泌を誘導する抗体は、変異ウイルスのスパイク糖蛋白質への結合が低下しているのです。

これまでの臨床研究で、mRNA基盤ワクチンの接種で生産・分泌が誘導される抗体は、オミクロンBA.1とBA.2変異体のスパイク糖蛋白質への結合が低下することが分かっています。

例えば、武漢タイプのウイルスと比較すると、オミクロンBA.1では6.1倍、BA.2では8.4倍それぞれ減少しています。そのため、米政府は感染力の強いBA.5に対応するワクチンの製造をメーカーに依頼しています。モデルナ社はすでにBA.4とBA.5に対応するワクチンの製造に着手していると発表しています。

（聞き手=遠山嘉之/日刊ゲンダイ）